

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	水源の森林が育む木育と交流事業
事業主体 (連絡先)	木曽広域連合 長野県木曽郡木曽町日義 4898-37 TEL : 0264-23-1052
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (ウ 森林づくりと林業の振興)
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,462,593 円 (うち支援金 : 2,507,000 円)

事業内容

- ①森林整備啓発事業
 - ・木曽ひのきに触れるワークショップ 7月29～30日 参加38名
木曽ひのきのアロマオイル抽出実験、ボンボンづくり、森林整備啓発
 - ・森林整備作業体験ツアー 10月30日 参加32名
東京大学木曽観測所見学、森林整備作業体験、苔玉づくり体験
- ②交流の拡大
 - ・イオンモール常滑出展 7月15～16日 体験87名
 - ・常滑市農業まつり出展 11月27日 体験22名
木曽ひのきの箸づくり体験、森林整備啓発、観光PR
- ③木育推進・流域連携・情報発信
 - ・木育研修・講座 6月～1月 参加者：園児170名他保護者・保育士等
 - ・木育プログラム開発 2プログラム開発、木曽町・南木曽町で実践
 - ・情報発信 WEBサイト掲載、下流域自治体訪問時に事例紹介



【森林整備作業体験】

【目標・ねらい】

- ①森林整備・交流啓発
- ②交流の拡大
- ③木育推進・流域連携・情報発信

事業効果

- ①ワークショップは、コロナ禍により受入れ人数を半減したものの、それに対して申込多数により実施することができた。体験ツアーは、行程に盛り込み過ぎた感があったが、いずれのコンテンツも概ね好評であった。これらにより、木曽地域の森林整備の重要性や観光等に対して、下流域住民の興味関心を深めることができた。
- ②箸づくり体験を通じて、森林整備の重要性を効果的に啓発することができた。イオンモール常滑においては、同事業所の趣旨理解も得られ、出展料の大幅な減免も実現できた。
- ③子どもや保護者・保育士への木育講座を行ったことで、木育に対する理解が深まり、木育推進の必要性が高まった。(木育講座に対する保育士へのアンケート調査の結果、満足度は96%、継続希望は100%に達した。) 木育プログラム開発により、各園が独自で木育を進める土壌ができた。下流域自治体における木材の利活用提案の一つとして活用した。WEBサイトを活用し、下流域自治体への情報発信と連携推進に取り組んだ。

※自己評価【 B 】

【理由】

当初計画していた上下流域の子ども達の交流はできなかったが、下流域自治体から木曽地域へのツアー造成や木曽産木材を活用したフォトフレームの製作など経済的な交流に繋げることができたため。

今後の取り組み

- ①ワークショップについては、毎回応募多数になる好評な事業であるため、過去4回の実施経験をもとに継続して開催し、一層の啓発活動に取り組んでいきたい。体験ツアーについては、次年度予算要求のために一部の下流域自治体より見積資料の問い合わせがあるなど、森林環境譲与税獲得に向けて継続的に取り組み、内容を精査しながら一層PRを図りたい。
- ②交流事業が始まったばかりの市のため、今後も交流について市民理解を図るため継続的に事業を実施し、上流域での森林環境譲与税の利用促進や観光需要等の増加を図りたい。
- ③木曽地域に木育を根付かせるために、各園における木育講座を継続して行うとともに、プログラム開発を進め、下流域自治体での木材利活用に関わるよう売り込みを行う。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある